



# 「社会調査データによる階層意識の解明」

学 習 院 大 学

【 法学部 政治学科 教授 数土 直紀 】

## 研究者紹介

1965年生まれ。

東京大学文学部社会学専修課程卒業。

同大学大学院社会学研究科社会学Aコース、博士課程修了。博士(社会学)

【キーワード：階層意識、格差社会、数理社会学、計量社会学】

## 本研究の目的・内容

長期的な社会変動が、人びとの意識・行動にどのような影響を与えてきたか、そしてこの先どのような影響を与えることになるのか、このことを明らかにする。

具体的には、戦後から現在にいたるまで定期的実施されてきた全国規模の社会調査(社会階層と社会移動全国調査 通称:SSM)のデータをもちいて、総中流社会と呼ばれた1970~80年代から格差社会が議論にされるようになった2000~10年代にかけて、人びとの意識・行動がどのように変化してきたのか、そしてその変化がどのようなメカニズムによって引き起こされたのかを明らかにする。

さらに、少子高齢化およびグローバル化と呼ばれる大規模な社会変動が、今後、人びとの意識・行動にどのような影響を及ぼすことになるのか、このことを解明する。

## 本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

従来の社会階層研究では、社会調査データをもちいて格差の実態を明らかにすることが主たる目的となってきた。その一方で、格差が人びとの意識やアイデンティティ形成にどのような影響を及ぼしているのか、そしてどのような影響を及ぼすことになるのかについて十分な注意が払われてこなかった。本研究では、人びとの意識・行動レベルでの長期的な変化を明らかにすることで、格差の目にもえにくい問題点の解明・解決に貢献できる。

## 主な研究業績

【論文】“Social Networks of Trust Based on Social Values: An Explanation of Curvilinear Relationships between Generalized Trust and Democracy,” *Journal of Mathematical Sociology*, 41(4): 193-219, 2017 年。(単著)

【論文】“The Effects of Women’s Labor Force Participation: An Explanation of Changes in Household Income Inequality,” *Social Forces*, 95(4): 1427-1450, 2017 年。(単著)

【著書】『信頼にいたらない世界 権威主義から公正へ』, 勁草書房, 2013 年。(単著)

## 応対できる研究・企業等への希望

1. 共同研究
2. 受託研究/評価試験
3. 学術指導/コンサルティンク
4. 講演/出張講義
5. 寄付金受入
6. 報道等の取材/出演
7. その他(研究員受入)

研究者より:

社会の長期的な変化が人びとの意識・行動に及ぼす影響を対象にしてきました。格差が人びとの意識をどう変えてきたか、このような疑問をもつ方におこたえすることができます。

【お問い合わせ】

学習院大学 研究支援センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1228 Mail: Ken9-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html>



学習院大学 広報大使

さくまサン

©'12-'18 GAKUSHUIN